

ますます好評！ 牧草の新品種群

雪印種苗(株) 北海道研究農場

作物研究室 室長 **高山光男**

チモシー「ホクセイ」「ホクエイ」
メドウフェスク「リグロ」
シロクローバ「ルナメイ」「リベンデル」

平成10年より、チモシー早生「ホクセイ」、中生「ホクエイ」、メドウフェスク「リグロ」、シロクローバ「ルナメイ」、「リベンデル」の本格供給をスタートし、おかげさまで好評のうちに販売・ご活用いただく事ができました。平成11年は本年以上の種子量を確保し、安定供給を確立しておりますので、次年度もご愛顧のほどよろしくお願いたします。

チモシー2品種は平成8年より道内の普及センター、農協さんの協力の下に試作を展開し、3年目を終了いたしました。圃場によっては平成9年から開始したところもあり、それらは今後も継続する予定であります。今回は、試作状況と当社北海道研究農場での生産力検定試験の結果をまとめましたので、ご一読願います。

1 チモシー新品種の試作状況 (その3)

早生品種「ホクセイ」(系統名 SB-T-8710)

中生品種「ホクエイ」(系統名 SB-T-8704)

(北海道優良品種, 種苗登録品種)

表1, 2に清水町での3か年の試験成績を示しました。数値は品種毎に数箇所を坪刈りしたその平均値であります。早生圃場(ホクセイ)は平成8年4月にチモシー2.0kgにアルファルファ0.3kg/10aを混播し、3年目は1番草を6月9日、2番草を8月6日に収量調査を行ないました。

表1 '98年収穫時草丈(cm)、冠部被度(%)

区名	1番草		2番草	
	草丈	被度	草丈	被度
ホクセイ	109.3	70	91.7	70
バータス	81.0	30	95.2	29
ノサップ	108.2	70	93.0	70
バータス	83.9	30	96.6	29

表2 2か年乾物収量 (kg/10a)

区名	'97年		'98年	
	年計	比(%)	年計	比(%)
ホクセイ	879.5	105	903.4	112
ノサップ	835.3	100	807.7	100

表1に本年の収穫時の草丈と冠部被度を、表2に'97年と'98年の1, 2番草合計乾物収量を示しました。

前作は畑作物で雑草が少なく、肥沃な土壌であり、輪作体系の中に草地も組み込まれ、更新年限はほかの地域に比較して短くなっております。

試作圃場のホクセイは2年目と同様に裸地が少なく、表に示すように多収でありました。2年目よりシロクローバが目立つようになりましたが、ギシギシ防除のために除草剤(使用除草剤は不明)を散布したため3年目でも痕跡程度であります。雑草は極めて少ない圃場であり、農家さんの管理が十分に行き届いております。

ほかの試作圃場の成績も含めて検討しますと、ホクセイは出穂時期がノサップよりもやや遅いため、出穂を確認してから刈り取らなければ、品種の特性が出ません。この傾向は1年目も同様であり、試作圃場等で比較する場合には、この点に注意して下さい。

表3, 4に清水町でのホクエイの成績を示しました。表3は収穫時の草丈を表4には2か年の1, 2番草合計乾物収量を示しました。ホクエイは中生の中でもキリタツプよりもやや早いので、表4に示す様に乾物率が高く、乾物収量が多収となります。この圃場は1年目から倒伏が多かったために、裸地が多く、特に生育が旺盛である2年目は、多収ではありましたが、全体に裸地が多い結果と

表3 '98年収穫時草丈 (cm)

区名	1番草	2番草
ホクエイ	100.5	93.2
キリタツブ	107.5	91.3

表4 中生種2か年の乾物収量 (kg/10a)

区名	'97年		'98年	
	年計	比(%)	年計	比(%)
ホクエイ	844	111	946	135
キリタツブ	760	100	699	100

なりました。

畑作と兼業の酪農家さんは、牛の頭数に対して粗飼料畑の面積が少ないためか、チモシー草地で3回刈りをする方もおり、基本的にこの様な地域では中生品種は適さず、早生の品種の中でもやや遅い、ホクセイが適しているものと思われます。また、中生品種は生育期間が長いために倒伏が多く、特に畑作の輪作に組み込まれている草地は肥沃なため、より倒伏が多くなります。

従って、既存の草地は早生品種が多いからといって、単純に更新する畑は中生にするといった考えではなく、中生品種は倒伏が多いため、堆肥があまり入らない、牛舎から離れた草地を更新するなどの工夫が必要です。

次に当社研究農場において、本年度終了しました育成系統の生産力検定試験より、新しい成績を抜粋して紹介いたします。播種は平成8年5月で3反復乱塊法配列、管理、調査は常法であります。試験成績を表5、6に示しました。出穂始日と収量成績は2、3年目の平均値を、倒伏は3年目1番草の耐倒伏性(極弱:1~9:極強)を示しました。条播での試験であるため出穂始めは参考程度にして下さい。2年目の刈取りは1番草は早生グループが7月1日、中晩生グループが7月8日と刈取り時期が遅く、2、3日の出穂始日の差で

表5 ホクセイ・ホクエイの出穂始日・耐倒伏性

品種名	出穂始日 6月/日	耐倒伏性	
		6月18日	6月26日
ホクセイ	18	7.7	7.3
ノサップ	16	6.3	6.0
ホクエイ	25	9.0	8.3
アッケシ	22	4.0	4.3
キリタツブ	24	6.0	7.0

耐倒伏性は極弱:1~9:極強

(当社北海道研究農場)

表6 ホクセイ・ホクエイの収量性(2か年平均乾物収量)

品種名	(kg/10a)		
	1番草	2番草	年合計
ホクセイ	719(107)	389(123)	1,108(112)
ノサップ	674(100)	315(100)	989(100)
ホクエイ	830(110)	378(101)	1,208(107)
アッケシ	754(100)	375(100)	1,129(100)
キリタツブ	798(106)	330(88)	1,128(100)

()内は比

(当社北海道研究農場)

も遅い品種が多取となっております。ホクセイは出穂始めがノサップよりも2日遅く、1番草の乾物収量は約7%多取であります。ホクエイはアッケシ、キリタツブより3、1日遅い出穂始めとなり、1番草乾物収量はアッケシ・キリタツブよりもそれぞれ約10、4%多取でありました。厳密にはホクセイ、ホクエイの使用した種子は、ほかの新しい自社育成系統との比較のために合成1代種子を使用し、アッケシ、キリタツブ、ノサップは原種を使用していますので、ホクセイ、ホクエイよりも世代が進んでいるものと思われます。北研の成績ではホクセイは耐倒伏性(表5、3年目成績)と2番草の多収性(表6)が再確認され、ホクエイは耐倒伏性と多収性が確認されております。

2 メドウフェスク、シロクローバの試作状況(その4)

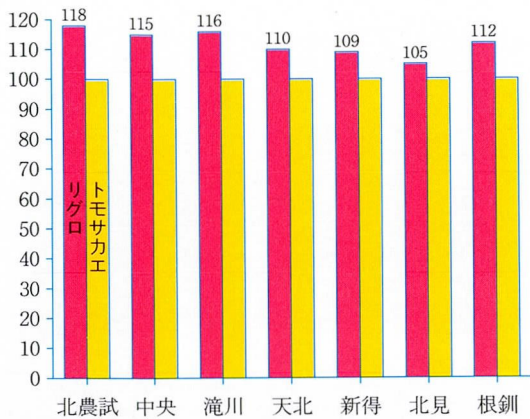
チモシー・ホクセイ、ホクエイと同時に、今春より本格的販売に移りましたメドウフェスク・リグロと大葉型シロクローバ・ルナメイ、リベンデルを紹介致します。両品種はチモシー2品種と比較しますと、主流にはならない草種のため、軽視されがちであります。確実に改良されており、従来品種に替えてのご利用を願いたく、優良品種に認定されたときの成績を紹介いたします。

1) メドウフェスク「リグロ」(系統名SB-M-8201)

(北海道優良品種、種苗登録品種)

品種名の由来は再生を意味します。メドウフェスクは、チモシーに比較して季節による草量の変動(季節生産性)がペレニアルライグラスと同様に少なく、秋遅くまで比較的良好な生育をします。

特に、7月以降チモシーの生育は停滞するのに比べ生育の良好な草種であります。越冬性はペレニアルライグラスよりも優れ、オーチャードグラ



(トモサカエを100とした値)

図1 リグロの3か年合計乾物収量比

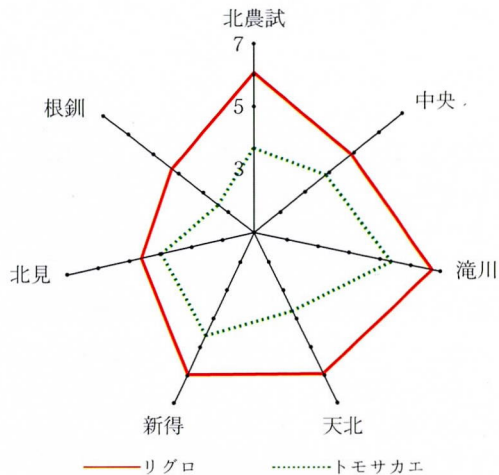


図2 リグロの越冬性 (極不良：1～9：極良)

表7 開花始及び越冬性

品種名	開花始 ¹⁾	越冬性 ²⁾	枯死面積率(%) ³⁾
ルナメイ	6.22	7.1	31
カリフォルニアラジノ	6.24	6.8	51

注) 1) 根釧2・3年目、天北3年目の平均。

2) 極不良：1～9：極良、北農試を除く5場所の平均。

3) 根釧単播3年目の成績。

リグロはトモサカエよりも、越冬性に優れ、全道で多収となる優良品種です。

利用方法は写真の圃場などを参考にすると、チモシーとの混播の場合には3 kg/ha を上限とし、単純混播はシロクロバ・ルナメイを2 kg/ha と播種します。メドウフェスクは種子が大きく合計で30 kg/ha は播種したいところであり、チモシーは種子が小さく、最近では平均で25 kg/ha 程度となっておりますが、種子の大きいほかのイネ科草種は30 kg/ha が適当であります。

また、ほかの草種と同様にメドウフェスクも草丈が伸びすぎると嗜好性が低下しますので、短草利用が望まれます。また、春先の生育の旺盛な時期に伸びすぎたときには、採草利用に切りかえてご利用ください。

2) シロクロバ「ルナメイ」「リベンデル」

(北海道優良品種、OECD登録品種)

ルナメイはシロクロバ品種の中で葉のサイズが大きい大葉型(ラジノ型)に分類されます。ルナメイは安定生産に必要な形質、越冬性(表7)とマメ科率が安定(図3、4)した品種であり、



写真 清水町H農家さん、5、6年前よりメドウフェスクとシロクロバとの単純混播の放牧地を利用している。春先の萌芽はチモシーよりやや遅いが、秋遅くまで利用が可能である。

ス並みに優れます。

メドウフェスクは従来混播草地での補完的草種として利用されてきました。しかし近年、メドウフェスクを主体として放牧利用を行う事例(写真)もあり、ペレニアルライグラスの越冬が不安定な地域における放牧専用種として、今後その利用が期待されています。

新品種リグロはトモサカエと比較して、収量性(図1)や越冬性(図2)に優れるため、平成6年に北海道優良品種に認定されました。熟期はファースト、トモサカエとほぼ同じか1日早い早生品種です。

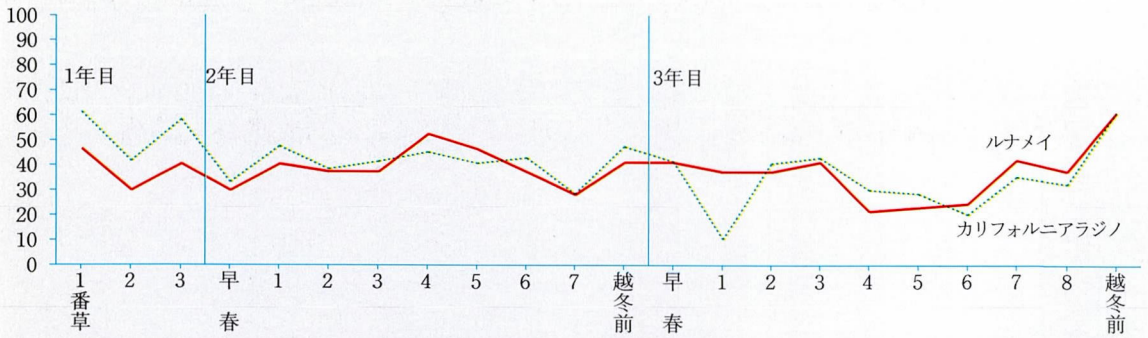


図3 オーチャードグラス「ケイ」との混播におけるルナメイの冠部被度推移 (新得畜試)

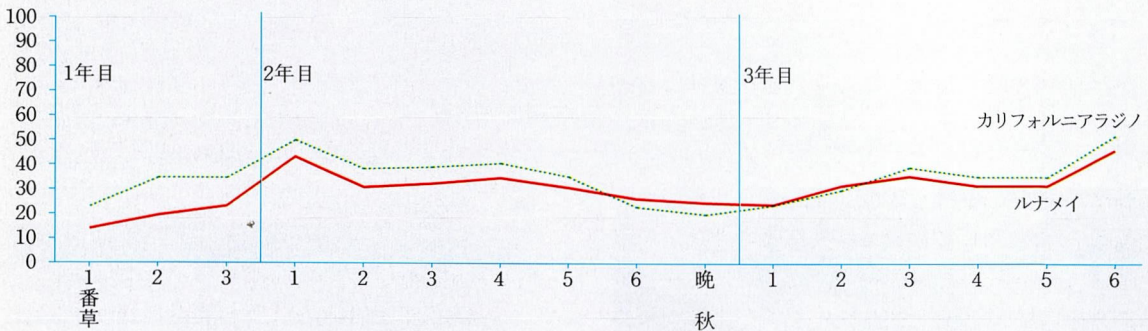


図4 オーチャードグラス「ケイ」との混播におけるルナメイの冠部被度推移 (根鉤農試)

平成5年より行われた北海道優良品種選定試験の結果、越冬性、混播適性に優れるため、北海道優良品種に認定されました。

シロクロバの大葉型品種は、オーチャードグラス主体草地とチモシー早生品種との混播での利用が多くあります。しかし、チモシーと混播しますと乾燥する土壌では、造成年にチモシーが抑圧され、2年目には裸地が多くなるため、大葉型品種の利用は避けたほうが良いでしょう。その他の地域ではマメ科率の変動が少ないため、カリフォルニアアラジノに替えての利用をお勧めいたします。

また、マメ科の優占する草地では小葉型・リペンドルを利用し、夏播き（8月中旬頃まで）にすると良好な草地が造成できます。

最後に、今回試作成績を利用させていただいた清水農協の阿部さん、普及センターの田村さんには、忙しい中協力を頂きありがとうございました。

